



米坂線の早期復旧を

No.1084
発行
2022年
10月20日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
清野 聡
編集責任者
教 宣 部

米坂線の調査実施
2022年10月11日

小白川橋梁が崩落



8月の災害で被害を受けた米坂線の調査を10月11日に実施しました。
米坂線は現在、坂町駅から今泉駅まで代行バスを運行しています。そして、臨時列車が今泉駅〜米沢駅間で運行されています。
調査はバス代行区間の坂町駅から今泉駅までを実施しました。
坂町駅でバスを待っている高校生2人に話げできました。通学のため乗車、越後片貝駅、越後下関駅も高校生が乗車するそうです。

坂町駅から一つ目の越後大島駅までの区間は、ものすごい土砂が流れ込んでいました。
写真はトンネル内に大量の土砂が流れ込んでいます。レール上1メートルから2メートルに及ぶ土砂が堆積していました。
これが数キロ続いているのでしょうか。



次の写真はトンネルから反対側です。写真の右側は国道113号線です。
道路や沢の修復工事を行っていた建設会社の関係者から話を聞きました。レールは大量の土砂に押し流されて曲がり道路側に落ち込んでいたそうです。



国道113号線沿いに流れる荒川はいたるところに流木が流れ着いていて当時のすさまじさを感じました。
越後大島駅は駅前が狭く大型バスが転回できないためバス停は国道113号線に設置されていると、通りかかった地元の方が話していました。
越後大島駅から一つ目の踏切ですが、遮断棒が撤去されていました。





越後片貝駅で建設会社の方が作業していたので作業内容を聞きました。レール上ではショベルカーが土砂を撤去していました。軌陸車が坂町駅方向へ走っていききました。踏切・沢・道路などの工事でしょうか・・・

土砂は山から大量に流れ込んでいます。特に越後大島駅から坂町駅間が一番ひどい状態でした。



この踏切も遮断棒が撤去されました。誤動作防止なのか。各駅から一つ目の踏切はほとんど遮断棒が撤去されていました。これは磐越西線も同様に撤去されました。



羽前沼沢駅

羽前沼沢駅に車両が留置されていました。キハ110でした。災害で米坂線が運行できずここに留置せざるをえなくなったのでしよう。早期復旧で早く車両基地に戻してやりたいと思いました。

○米坂線の調査を実施して、被害の大きさにびっくりしました。磐越西線よりも大きな被害でした。磐越西線、米坂線ともに橋梁がひとつ崩落しました。

○土砂の流入ですが、米坂線と磐越西線とは若干被災状況が違っていたように思われます。そして災害の区域が米坂線の方が広範でした。

○マスコミ報道でも、磐越西線は来年春には復旧するとされていますが、米坂線は具体的に復旧について進んでいません。

○公共交通である鉄道は地域住民の命と暮らしを守る生命線です。全国の地方ローカル線を守り、災害で不通になった各線区の早期復旧に向けて、運動を進めていかなければなりません。

○11月、新潟県への要請行動を展開します。米坂線、磐越西線の早期復旧に向けてがんばりましょう！

